

事業概要とセミナー開催趣旨
 ~民間企業による森づくり活動促進のために~

国際緑化推進センター
 (JIFPRO)
 柴崎 一樹



JIFPROは…

- 熱帯地域の森林問題に取り組んでいる「公益財団法人」
 - 気候変動、森林造成、住民支援などの経験と専門性を有する研究員及び技術顧問で構成
 - 主に森林関連の調査研究・技術開発を実施 (政府補助・委託事業、JICA事業、企業からの委託事業)

林産物利用促進事業 (林野庁補助)

- ✓ 未・低利用な林産物に着目し、加工方法等を工夫することで、ビジネス化し、森林保全と地域住民生計向上を両立



森林再生技術普及事業 (林野庁補助)

- ✓ 環境ストレスが厳しく、通常の植林方法では、育ちにくい場所で、様々な植栽技術を試験し、森林再生技術を開発



国際緑化推進センター (JIFPRO) のご紹介_植林活動編



一言で、植林 (森づくり) といっても様々なタイプが存在



調査研究活動の知見を活かした森林保全活動や植林事業の実践

- ✓ 熱帯林造成事業 (民間からの寄付・委託)
 - ✓ 地域住民に配慮した植林活動
 - ✓ 東南アジア5か国で、約8,800haの森林造成

- ✓ 企業の海外植林地のCO₂吸収量を算定
 - ✓ 植林地の吸収量算定についてコンサル
 - ✓ JIFPRO独自のCO₂吸収量認証システムを構築



・民間企業が、土地を所有または借用し、木材やパルプ用材生産のために植林 (伐採前提)
 ・大面積で効率的な施業



・地域住民が共同で実施
 ・現地政府や海外ドナーが関与することもある
 ・非木材林産物のみ採取、伐採しない場合もあり

・生態的に価値がある保護区の植生回復や維持のための植林
 ・通常、政府の土地であり、伐採は想定しない



・土地所有・利用権を持つ者が植林
 ・管理と利用方法は所有者が決定
 ・面積は1ha以下 (ケニアの場合)

その植林がサプライチェーン内 (営利活動) かどうか?



植林ポテンシャル: どんなところに植林できるのか?

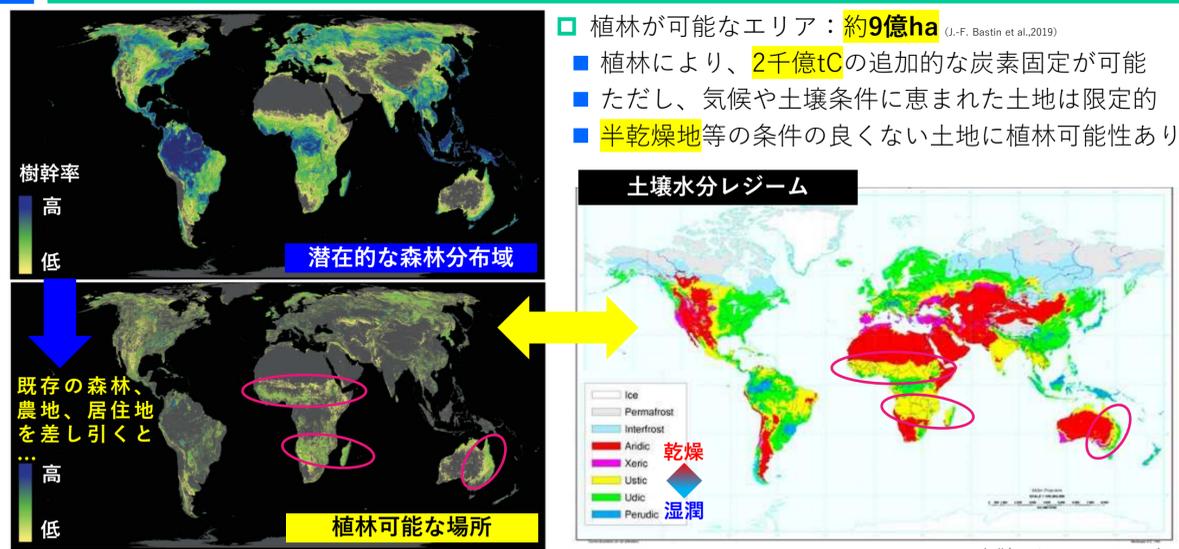


日本企業による海外での植林活動は大きく分けて2種類

- ① **サプライチェーン内**: 企業が持続可能な原料調達のために植林活動を実施 (産業植林も該当)
- ② **サプライチェーン外**: 企業の原料調達 (営利活動) 等とは直接関係ない場所で植林活動を実施

① サプライチェーン内の植林活動	② サプライチェーン外の植林活動
住友林業 (複数国、木材用+クレジットファンド)	三井住友海上 (インドネシア、保護区で植林)
日本製紙 (複数国、紙パルプ用)	トヨタ紡織 (ベトナム、ブラジルの農地で植林)
越井木材工業 (マレーシア、製材調達)	ダイキン (インドネシア、国立公園内で植林)
丸紅 (インドネシア等、木材調達)	三菱商事 (ケニア、ブラジル、インドネシア等で植林)
ヤマハ (タンザニア、楽器用)	商船三井 (インドネシア、マングローブ植林)
三井物産 (ケニアの農家植林に投資)	イオン (日本、東南アジア、ケニア等で植林)

- ・近年、① **サプライチェーン内**での植林活動により原料調達の持続可能性をPRする事例は増加
- ・しかし、①は条件の良い場所、ビジネスとして成立しやすい場所等に限定
- ・植林できる (すべき) 場所は、条件の良い場所を中心にまだまだある (次スライド)
- ・そのような場所においては、「② **サプライチェーン外**の植林」が重要になってくる



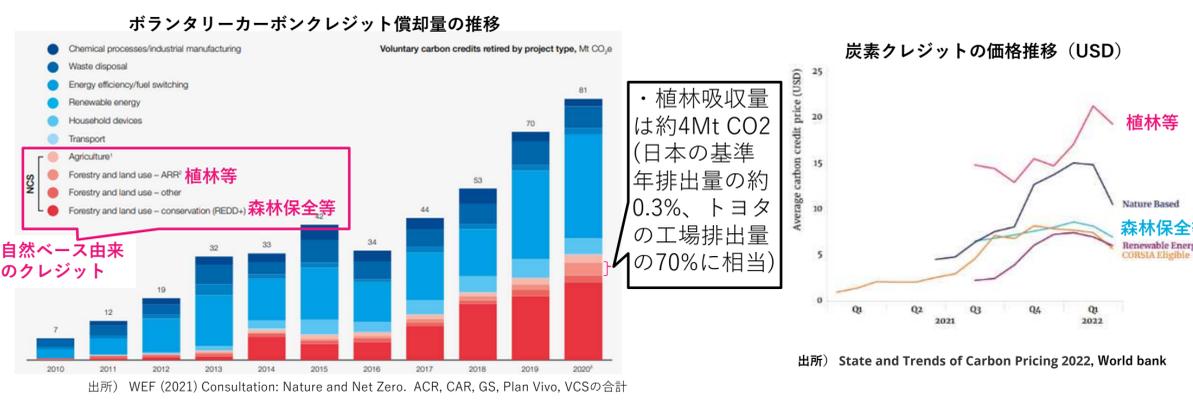
植林ポテンシャル：どういふ植林ができるのか？



植林によるCO2吸収量 → 炭素クレジットすればよい？



- クレジット化 = 流通可能(財産化) → 用途幅拡大 → それにはクレジット発行機関の認証必須
- クレジットの取引量は増加傾向、特に自然(森林)ベースのクレジットの割合増加
- 実際、クレジット目的の植林プロジェクト増加、+ 買取り価格も上昇

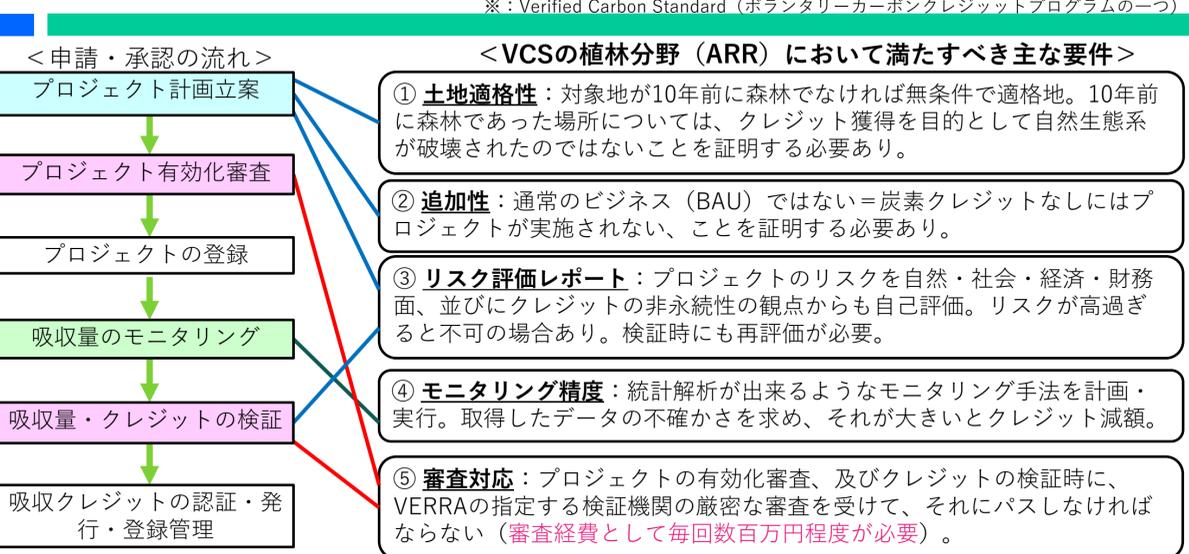


植林吸収量の価値が認識され始めている → クレジット化は、企業努力を「見える化」しやすいが...

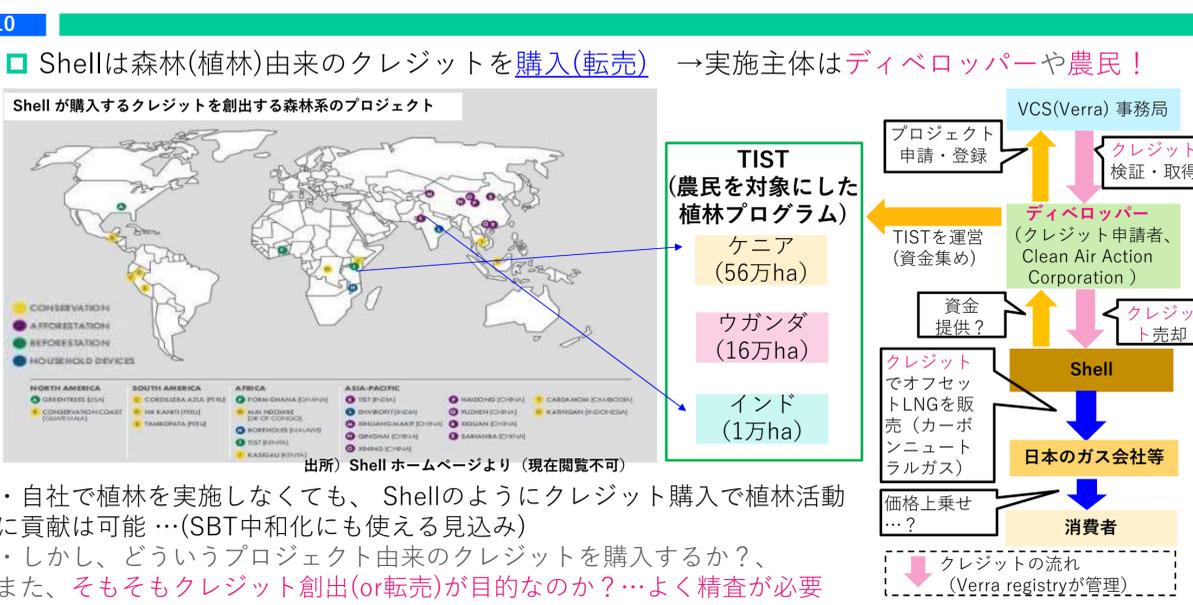
クレジット植林の申請の複雑さ (VCS※の例)



クレジット植林の主体は誰なのか？ (Shell+VCSの事例)



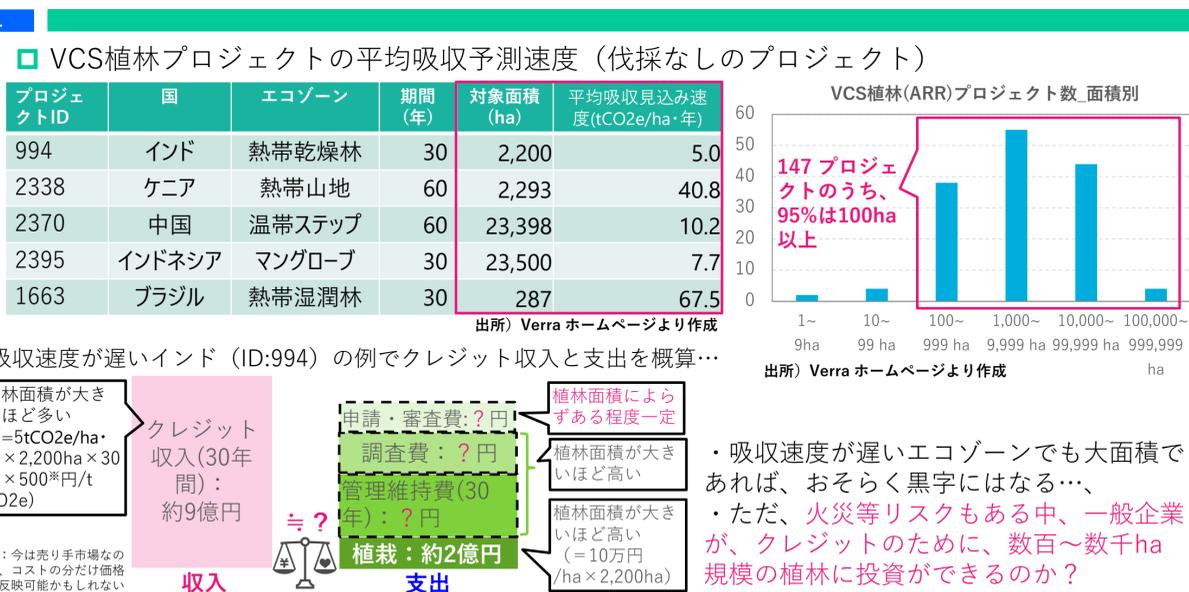
サプライチェーンに森林を介さない一般企業が、「植林→モニタリング→クレジット申請」を行うのは困難？



クレジット植林は黒字になるのか？



本事業の趣旨_サプライチェーン外の植林活動促進のために



従来は、「植えること」に主眼
 → 「植えた」本数・面積、映える? 写真! 報告
 ・植栽後の調査コストはほとんどかからない
 ・しかし、3ha→300haに拡大しても、評価(得られるメリット)は100倍にならない
 → 植林活動を拡大するインセンティブ働きづらい

近年、注目されているのは...
 クレジット植林
 ・植林以外コスト(時間・労力)高い
 → 大規模でないと成立しづらい
 → 一般企業にはハードル高い??

植えた後のインパクトをなるべく簡易に「見える化」

本事業が目指すのは...
 ・今後、ますます、植林のポジティブ効果が期待・注目されるはず
 ・その場合、植えた後が大事、確実に森林を成立させる!
 ・炭素 + α (生物多様性・住民へのインパクト)の「見える化」が重要
 ・ただし、「見える化」調査コスト > 植林コスト
 (企業が日本or現地の森林調査団体に委託する場合、よくある話...)
 → 小規模プロジェクトでも利用できるよう、なるべく簡易に「見える化」

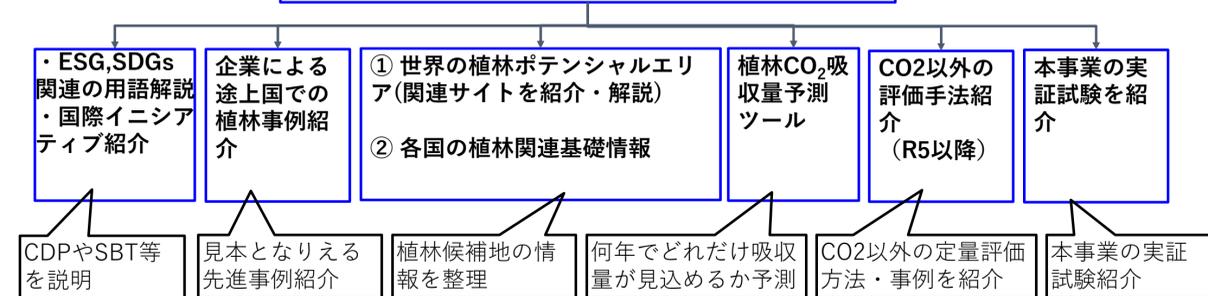
13 Webサイトの対象と目的

- 対象：ESG投資やSDGsを念頭に植林検討中の企業（特に林産物扱わない企業）
- 企業の目的に合わせた、植林活動やPR方法を紹介
- どこに、どれだけ植えると、どれだけ見込めるか？がすぐにイメージできる

Webサイトの名称と構造



途上国森づくりワークス -植えるを視える化-



近日中に公開予定

15 本日のセミナーでは…、4社の森づくり活動の取り組み紹介

従来の「植える」重視から、確実な「森林の造成」とその「視える化」への挑戦をご紹介

企業によるサプライチェーン外での植林活動の紹介

- 三井住友海上火災保険 (城 千聡)
 - 植える + α の熱帯林再生プロジェクト ~三井住友海上の2005年からの取り組み~
 - インドネシアにおいて、地域住民と共同で行う保護林の再生活動を紹介
- トヨタ紡織 (高井 智幸)
 - トヨタ紡織の森づくり活動 ~NGOと共に歩んだグローバル植樹の取り組み~
 - 2006年から続く、インドネシア、ベトナム、ブラジル、中国での植樹活動を紹介



2022年度の事業成果報告：簡易に「視える化」する取り組み

- コマツ(石森 正俊)
 - ケニア半乾燥地での機械オーガを用いた長根苗用の植穴掘削と植栽苗のモニタリング実証
 - コマツの技術をアフリカの半乾燥地の植林に展開
- アジア航測 (黄 勝澤)
 - モンゴルにおける低木林育成と経営の貢献度可視化手法の検証
 - 低木林植林のポテンシャルを可視化



ご視聴、ありがとうございました。
kazuki@jifpro.or.jp